

げばがど  
下馬ヶ峠

「往還をゆく」の続稿を書くに当たり、五十猛歴史研究会員など有志による往還踏破行の契機となった、「磯竹村嘉庭観音堂」の著者である、松原忠晴氏から一文を頂いた。自分の書き得なかった重要な史跡、史実について言及されており、全文を紹介する。

◇ 「嘉庭を通っていた往還について  
平成十九年九月  
松原忠晴

平成十九年七月二日

大屋一大森間の古道

①  
続往還を行く

おつかん

三井淳



下馬ヶ峠

に石見銀山は 世界遺産に登録された。

この機会に、私の祖父常二郎(安政三年生)は、この往還を代官さんが通られるときは先づれがあるとみ出したとされる往還(街道)の嘉庭の部分について考えてみたい。

に石見銀山は 三郎右衛門代官の頃だったと思われ。

と五十猛の大浦港を結ぶ重要な国道だった。この往還の鬼村と嘉庭の境には下馬ヶ峠(げばがど)と呼ばれる。

一六〇三(慶長八)年に大久保十兵衛が大浦港から海路銀千貫を積み出したとされる往還(街道)の嘉庭の部分について考えてみたい。代官が最後の代官鎌田

子毛利の古戦場、たたら地蔵、観音(観世音菩薩)さんをお祀りしてある観音堂などがあ

この観音さんは朝野の尊崇の念が篤かったらしく、銀山役人大賀要吉吉如(銀山要集編集者)が寄進した燈籠一基があるし、物部国造の祈禱神霊が六枚、梵字で書かれた祈禱札等沢山ある。写経も納められていた。

石見銀山と嘉庭大浦の深いかわりを見直したいと思う。

(五十猛歴史研究会員)

## 日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おす木曜日」は内藤博之さんの「カウデ